

広がる学習支援活動の輪

戦争体験談や日本伝統文化の継承へ

グループ わ が取組んでいる「子どもたちの学習支援活動」が総合学習にも広がりを見せています。なぎさ小学校から戦争体験談を、また花谷小学校からは日本の伝統文化を教えてほしいとの要望があり、わ の会員たちが“おじいちゃん、おばあちゃん役”になっての話しに、子どもたちも大感激していました。

戦争体験談を聞く会 なぎさ小学校(中央区)

6年生の社会科に「戦争と人々の暮らし」で、戦争体験者の話を聞こうという項目があり、グループ わ に協力要請があった。学習支援メンバーから3名を選んで、11月21日(月)同校2階学習ホールに、6年生2組全員79名が集まり約2時間、戦争体験を聞く会が催された。

同校では修学旅行を兼ねて広島原爆記念館を見学していたのですが、神戸大空襲の恐ろしい話を聞いて泣き出す児童もあり、戦争中の苦しい人々の生活に驚いた様子でした。

学習支援メンバーの中沢千枝子さんがハワイのフラダンスを披露して、日本軍の奇襲攻撃で、敵国(アメリカ)でも親、兄弟を失った子ども達の話の聞かせた。終わって学校給食を“おじいちゃん、おばあちゃん”と一緒に食べながら楽しいひと時を過ごした。メンバー3人の話の要旨は次の通り。

住み家を強制撤去

理事 中沢 保夫

昭和20年、太平洋戦争はますます激しくなると主なる都市は連日のようにアメリカ空軍による爆撃を受けていました。私は当時皆さんと同じ小学校6年生で、京都の五条に住んでいましたが、ある日家の玄関に張り紙が張られていました。

「1週間以内にそれぞれ大切な荷物は持って立ち退く



戦争中の人々の生活の話に聞き入る児童たち

ように」との命令書です。平安京の昔に出来上がった古い都で家がたてこみ、東西南北縦横に狭い道があり、一度爆撃を受けたらひとたまりもありません。延焼を防ぐために東西は五条通や御池通、高辻通、南北は堀川通に建物の強制疎開命令が出されたのです。

立ち退いた家には在郷軍人や学生が狩り出され、家々の大黒柱に斧で切り込みをいれ、その柱に太い縄をかけて人力で引っ張って家を倒していく。先祖から受け継ぎ昨日まで住んでいた私達の大事な住まいが目の前で壊されました。私達はただ涙を流しながら眺めているだけでした。その悲しさはたとえようもないものでした。

空襲で母姉3人を失う

理事 西阪 順三

太平洋戦争が終わる1年前の夏、神戸市立北野小学校6年だった私は空襲で危険だからと岡山県へ集団疎開したのです。初めて親元を離れての生活には想像以上に辛く寂しいものでした。食糧難はひどく豆かす、高粱、いもの蔓の入った食事が多かったのです。

翌年3月神戸に帰ってきたのですが、毎晩のように空襲警報で着のみ着のまま寝る日が続きました。

6月5日に神戸大空襲があり、私は火の海の中を逃げ惑い、無傷で避難したのですが、母と姉2人の行方が分からなくなったのです。

1ヶ月後に下の姉の遺体を発見したのですが、母と姉の二人は見つけることが出来ませんでした。神戸の空襲は120回で8,000人もの犠牲者が出たのです。「二度と戦争はしない」と語り継いで頂きたい。

なぎさ小学校6年生からの感想文(一部を紹介)

★戦争は辛い体験だったと思います。ですが、その体験を聞かせて頂いたおかげで戦争の恐ろしさや、あつてはならないものだ、一同肝に銘じておきます。ハワイの踊り”フラ”とてもいい歌で、大人達の思いを子ども達に伝えたかったかよく分りました。(山本 駿)

★戦争について語ってくださって有難うございました。ぼくはあなた達の話聞いて命は大切だ、家族をもっと大事にしなければならぬと実感しました。親や兄弟(姉妹)から戦争のために離れて祖父、祖母の家に送られて家族のいないさびしさを毎日感じてつらいだろうと思いました。(中川 大輔)

★わたしは戦争の話の聞いていると、とても悲しくなってきました。おじさんが「親とはなれて平気ですか」といった時、親とはなれる事を想像してみたらとても不安になってきました。戦争は何かきっかけがないと出来ないんだから、私はそういうきっかけを作らず、他国とも仲良くしたらいいと思いました。(瀧井 彩那)

明るい日本の未来を
音6-文 中沢 千枝子

少し視線をかえると、戦争の恐ろしさやむごさは、当然のことながら相手の国にも起きていたんですね。昭和16年12月、日本軍のパールハーバー奇襲作戦はハワイの人々にとっていきなりの爆撃で、全く無防備の南の島では、悲惨な状態であったようです。

それまでもアメリカ本土から様々な差別を受け続けたハワイの人々は、当時禁止されていた本来のフラを子ども達に伝え、ハワイの子ども達が団結して滅びることがないように願いをこめた歌と踊りをつくりました。これはハワイの人々にとって大変勇気のいることでした。

生徒さんたちにアルリケ(ハワイ語で歌いフラを踊る)を見てもらいました。私はこの歌を知ったとき、阪神大震災の直後につくられた“夢をはこべるように”を思い浮かべました。苦しいことが起こったとき、泣き叫んでばかりでは解決しません。どうか皆さん方若い世代で明るい日本の未来を築いてください。